

群馬県立太田フレックス高等学校【定時制課程】

学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策		点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	本校の特性を生かした教育活動と個に応じた支援・指導を展開する。生徒主体の様々な学校行事を通じ母校愛を育み、学校の活性化を図る。	A	A	A	保護者100%、生徒82.3%が肯定的な回答をしている。昨年度は保護者97%、生徒78%だったので、若干ではあるが改善した。受容的態度が基本姿勢ではあるが、指導すべきことはしっかり指導していきたい。	生徒や保護者から学校のシステムが個別最適な学習環境を担保していることへの満足度が高いことは十分に評価できますが、ゼミ活動などの探究的活動でのエージェンシー発揮の部分でさらなる改善が必要であると感じます。 ②生徒自ら判断する機会を学校として更に創出することを期待します。 ⑤欠席の理由がメンタル的なものであれば、そのケア、スクールカウンセラーとの連携とその成果に期待します。 ⑥ゼミの内容の満足度については、その活動の目的や最終的に目指す想定ゴール（そのゼミ内では達成できないとしても）が明確になっているか確認をお願いします。つまり、そのゼミをやる意味って何？が分かれば満足度は向上するのではないかと思います。 ⑦日本語授業は是非、日本語検定(N1とか)取得をサポートするカリキュラムを目指してほしいです。
		② 「自ら考え、判断し、行動できている」と感じている生徒が90%以上である。	授業や部活動、学校行事等のあらゆる場面で、多様な個性や価値観を認め合い、生徒が自ら判断し行動できる機会を設ける。(②・③共通)	B	B	B	保護者72.9%、生徒84.0%が肯定的な回答をしている。昨年度は生徒90%だったので大幅にダウンした。本校の根幹でもあり、改善を図りたい。	
		③ 「多様な個性や価値観を認め、他者を思いやれている」と感じている生徒が90%以上である。	個々の生徒の適性や卒業目標(3年卒業・4年卒業)、進路目標に合わせた個別指導を適宜行う。	A	A	A	生徒93.7%が肯定的な回答をしている。昨年度の90%から若干好転した。多文化共生は本校の大きな特徴であり、生徒の寛容性を涵養するだけでなく、生きた教材として利活用したい。	
		④ 完全な単位制の履修形態に満足している生徒・保護者が95%以上である。	連絡のない欠席者の保護者へ必ず連絡を行う。欠席が増加・連続傾向にある生徒について、早めに保護者との面談の機会を持つ。	A	A	A	保護者98.4%、生徒95.0%が肯定的な回答をしている。昨年度より若干低下した。本校の根幹でもあり、丁寧な履修指導を行いたい。	
		⑤ 学年・学級がない中で、生徒の出席率が80%以上である。	主体的かつ探究的に活動(エージェンシーの発揮)させるため、職員研修を実施するなど、指導者のスキルアップを図る。また、生徒の現状に応じて、必要な学力が身に付くように、指導内容や授業展開を工夫する。	B	-	B	4/8~12/23における出席率が、Ⅰ部87.7%、Ⅱ部81.2%、Ⅲ部81.2%であった。各部とも、退学者や長期欠席者が多数いる中で、目標値を上回ることができたが、さらに高い数値を目指したい。	
		⑥ ゼミ(総合的な探究の時間)の活動や学校設定科目の内容に満足している生徒・保護者が90%以上である。	日本語指導支援員や外部団体、県貸与の機器(多言語通訳機)などを活用して、外国人生徒等の包括的支援体制を確立するとともに、多文化共生を一層推進する。	B	A	B	ゼミ制度について保護者98.3%、生徒95.0%が、学校設定科目について保護者100%、生徒98.0%が肯定的な回答をしている。ゼミ活動は本校の特色の一つであり、保護者も生徒も制度自体には満足しているが、ゼミの活動内容の満足度は少し下がる(保護者88.1%、生徒90.0%)ため、活動内容の再検討が必要である。	
		⑦ 外国籍や日本語を母語としない生徒に対する日本語指導体制に満足している生徒・保護者が90%以上である。	少人数制授業のメリット(主体的な学び・失敗から学ぶ)・デメリット(多くの他者との共感や理解を深める)を再確認したうえで、授業展開にバリエーションを持たせる。	A	A	A	生徒の23.1%が「日本語」を履修し、そのうち91.2%が肯定的な回答をしている。今後、ますます需要が高まると予想され、指導体制の確立が急務である。共生部中心に行っているが、学校全体でいかに取り組んでいけるか、大きな課題である。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑧ 少人数制の授業(形態や内容)に満足している生徒・保護者が95%以上である。	少人数制授業のメリット(主体的な学び・失敗から学ぶ)・デメリット(多くの他者との共感や理解を深める)を再確認したうえで、授業展開にバリエーションを持たせる。	A	A	A	保護者100%、生徒96.7%が肯定的な回答をしている。少人数制授業のメリットを生かし切れていない授業形態もまだまだ多く、授業者のさらなる工夫・研鑽が必要である。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨ 学力が向上したと感じている生徒が90%以上である。	思考力・判断力・表現力を育む指導、探究の過程を重視した授業、適切な評価等の工夫と実践をに向けた研修を実施し、授業改善を図る。	C	B	B	保護者81.0%、生徒77.9%が肯定的な回答をしている。生徒の回答が92%→81%→77.9%と年々低下している。学校行事や授業において、生徒自らの活動や思考を促すためのさらなる工夫が必要である。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ SNSに関わるトラブルに巻き込まれることなく、健全な学校生活を送っている生徒が100%である。	SNSに頼らない人間関係づくりによるトラブルの予防や日々の生徒の観察をより徹底し、適宜指導する。	B	B	B	保護者89.3%、生徒81.4%が肯定的な回答をしている。生徒の回答が94%→86%→81.4%と年々低下している。適切なSNSの利用について、繰り返し指導する必要がある。	中学校時代にリーダーとして活躍できなかった生徒が多い中で、苦心して活動の機会を生徒に提供していると思います。 ⑫単に「ルールだから守りなさい」の指導にとどまらず、どうしてこういうルールがあるか、まで掘り下げられるといいと思います。 ⑬いじめの早期発見や防止などももちろん必要だと思いますが、万が一いじめられている生徒がいる場合には、いじめをかわしたり、乗り越えたりする処世術みたいなアドバイスをしたり、一緒に考えてあげられたりできるといいと思います。 ⑭保護者の約半数が「うちの子は不健康です」と回答してしまう状況もどうかと思いますが、いずれにしても詳細分析が必要だと思います。この問題に特化した調査を行ってもいいくらいだと思います。
		⑪ 挨拶の励行や学校生活の中でのマナーや礼儀を守った行動ができていた生徒が90%以上である。	生徒間・生徒と教員間の温かい人間関係を基に、TPOをわきまえた節度ある行動をとれるように指導する。	A	A	A	保護者96.7%、生徒95.0%が肯定的な回答をしている。式典における服装やマナーは年々改善されており、挨拶などもしっかりできる生徒が増えており、改善が進んでいる。	
		⑫ 交通マナー・交通ルールを遵守している生徒が90%である。	自分の身は自分で守るという意識を高めつつ、交通マナー・交通ルールを守る必要性を繰り返し指導する。	B	A	B	保護者93.3%、生徒95.0%が肯定的な回答をしている。実態は不十分であると感じている。ルールやマナーについて、生徒の基準が低いと思われる。生徒の命にかかわる問題であり、繰り返しの指導が必要である。	
		⑬ 教育相談が充実していると感じている生徒が80%以上である。	異変時はすぐに管理職、教育相談係、スクールカウンセラー等に報告・連携し、個々の生徒への支援を組織全体で行う。	A	A	A	保護者86.5%、生徒84.7%が肯定的な回答をしている。毎週水曜日にSCが来校し、毎回多くの生徒・保護者のカウンセリングを実施した。	
		⑭ 体育的・学校行事に生徒の70%以上が参加し、参加者の90%以上が満足している。	行事の意義理解と健康管理など、生徒への事前指導を充実させるとともに、当日は生徒の的確な観察と支援を行う。	B	B	B	生徒88.9%が肯定的な回答をしている。中学校時代にそうした活動を体験していない生徒が多い状況の中、生徒が中心となって行事を企画・運営し、多くの生徒が楽しんで参加することができた。	
		⑮ 学校行事フレックス発表会に満足している生徒が85%以上である。	ゼミ活動や探究活動において、他者に伝えたり、他者に評価される機会をこれまで以上に設定する。	A	A	A	生徒89.3%が肯定的な回答をしている。人前で発表することが苦手な生徒が多い状況の中、多くの生徒が前向きに取り組むことができた。発表技術や探究内容にはさらにいいものを求めたい。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 進路指導が自分の進路検討や進路決定に役立つと感じている生徒が90%以上である。	日々の観察と定期的アンケートにより状況を把握し速やかに対応する。集会等によりいじめ防止の啓発を行う。職員打合せなどで、生徒情報を共有する。	B	B	B	保護者82.6%、生徒78.9%が肯定的な回答をしている。様々な出自や家庭環境から生徒が集まる本校において、適切な人間関係構築は最も重要な課題である。細やかな生徒観察や適切な声かけ、SC利用などを通して、早期発見に努めたい。	
		⑰ 感染症予防について正しく理解し、実践する等、健康について自己管理ができている生徒が80%以上である。	『保健だより』による感染症予防や生活リズム等の広報活動を促進し、自主的に健康づくりができるようにする。	B	C	B	保護者57.6%、生徒74.9%が肯定的な回答をしている。年々数値が大幅に低下(保82→69→58%、生85→76→75%)している。学校生活に直結する問題であり、家庭と連携して取り組んでいきたい。	
		⑱ 進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が80%以上である。	進路関係諸行事のさらなる充実と適切な情報提供に加え、こまめに個別アドバイスをを行う。	B	B	B	保護者88.5%、生徒90.5%が肯定的な回答をしている。卒業予定者の就職内定率などから、生徒の進路意識醸成は不十分である。効果的な進路行事の構築が急務である。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が80%以上である。	早期に卒業後の進路を意識し、モチベーションを維持できるように指導する。卒業予定者に対するゼミ活動を充実させる。	B	B	B	保護者75.5%、生徒80.4%が肯定的な回答をしている。生徒が進路志望実現のために主体的に活動しているとは言い難い状況である。進路行事の在り方(時期・内容)について、再検討が必要と考えている。	
		⑳ ICTを活用した情報発信に満足していると評価する保護者が90%以上である。	保護者のニーズを的確に把握した上で、スマート連絡帳・ホームページ等を活用した情報発信を行う。	A	A	A	保護者96.4%が肯定的な回答をしている。教職員の労働環境改善も含めて、一層のデジタル化を推進したい。	新聞にも記事が紹介されましたが、各種のメディアを通じて学校の取り組みがさらに紹介されることを望みます。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ 学校説明会や授業公開、中学校訪問など、外部に情報発信する機会を年間20回以上設けている。	学校案内等の説明資料を充実させ、ホームページも定期的に更新し、本校の魅力を積極的に発信する。年間300人以上を個別の授業見学で受け入れる。	A	-	A	Ⅰ・Ⅱ部の生徒向け授業公開を16回実施、178組の生徒・保護者が参加した。職員向け授業公開は2回実施し、19名が参加(高校1人、中学校18人)した。Ⅲ部の授業見学には10組の生徒・保護者が参加した。また、中学校や塾などが主催する入学説明会も積極的に参加した。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒ ICTを活用した授業に、生徒の90%以上が満足している。	Chromebookを活用し授業内容の充実を図る。職員間の情報共有にオンラインを活用する。	B	B	B	生徒87.1%が肯定的な回答をしている。板書代わりとしての使用もまだまだ多く、研修などを通してさらなる授業方法の充実を図りたい。
	12 職員間の情報共有にオンラインを活用している。	オンラインで共有できる情報を精査し、職員会議や打合せの効率化を図る。	B	-	B	校務支援システムkinakoや電子採点システム導入など、ICT化による業務改善を進めているが、充分とはいえない状況である。業務のICT化を一層進める必要がある。		